

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DM625／社会言語学 (Sociolinguistics)		
担当者名 (Instructor)	櫻井 千佳子(SAKURAI CHIKAKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ICC3140	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

社会言語学およびその関連分野について、異文化コミュニケーションの観点から理解する。

Students should finish this course with an understanding of the scope of sociolinguistics and its relationship to other linguistic subdisciplines and other academic fields.

授業の内容(Course Contents)

本科目では、言語と文化の関係を探る社会言語学の分野において、言語の様々なヴァリエーションを扱い、それがどのようにアイデンティティや文化によって形成されるのかを理解する。本科目の目的は、異文化コミュニケーションの分野を包括し、社会言語学の研究を進めることができる理論的、方法的な知識を与えることである。

This course is an introduction to sociolinguistics, the study of the relationship between language and society. We will look at variation at all levels of language and how such variation constructs and is constructed by identity and culture. The overall goal of this course is to provide you with the theoretical and methodological knowledge to pursue research in sociolinguistics as well as comprehensive, up-to-date and critical overview of the field of intercultural communication.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション、社会言語学と異文化コミュニケーション
2. 通訳と社会言語学①
ビジネスコミュニケーションにおける社会言語学①
3. 通訳と社会言語学②
ビジネスコミュニケーションにおける社会言語学②
4. バイリンガリズム①
ジェンダーディスコース①
5. バイリンガリズム②
ジェンダーディスコース②
6. 第1言語習得と社会言語学①
言語相対論①
7. 第1言語習得と社会言語学②
言語相対論②
8. ノンバーバルコミュニケーション①
言語の類型的特徴と社会言語学①
9. ノンバーバルコミュニケーション②
言語の類型的特徴と社会言語学②
10. 親族名称①
スモールトーク①
11. 親族名称②
スモールトーク②
12. 期末のプレゼンテーション(1)
13. 期末のプレゼンテーション(2)
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Instructions will be given in class.

成績評価方法・基準(Evaluation)

Class participation(30%)/Book review(40%)/Presentation(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 井出祥子・平賀正子編、2017、『講座 社会言語科学1 異文化とコミュニケーション』、ひつじ書房(4-8946-245-5)

参考文献 (Readings)

1. Ingrid Piller. 2017. *Intercultural Communication: A Critical Introduction*. Edinburgh Univ Pr (ISBN:978-1474412919)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

講義部分 (言語データの提示と分析方法の説明を含む) をオンデマンドとし、履修者が繰り返し視聴し理解を深め、各々の言語データを分析したうえで、対面授業にて学生相互の活動で思考の幅を広げる、という段階的な授業実践を行うため、全授業回のうち7回はオンラインで実施する (実施回については Blackboard で指示する)。

注意事項 (Notice)